



EC-NL

情報処理学会 EC 研究会
ニュースレター

Vol.12 Sep 2015

いたらナイト！特集号

～ 5 年の軌跡を振り返る ～

「いたらナイト」とは？

エンタテインメントコンピューティング研究者の生態を赤裸々に disclosure する 30 分のラジオ番組として、本研究会主催の京都工芸繊維大学の倉本 到 先生が 2010 年から実施しているラジオ番組です。本号では、エンタテインメントコンピューティング (以下 EC) という研究分野へのイントロダクションとして、このラジオ番組の紹介を行います。

倉本先生インタビュー！

——研究会が独自にラジオを行うというのは、非常に変わった試みだと思いますが、どのようなきっかけで始まったのでしょうか？

最初は 2010 年の EC シンポジウム のときだったのですが（くらもとが実行委員長でした）、初回の実行委員会のあとの懇親会で（当時）後援いただいていた関西テレビ放送の方がラジオカフェの理事長をお呼びして、その場

で放送枠を決めちゃったのが始まりです。

後日あわてて当時の EC 主査だった奈良先端大の加藤先生に「（ラジオ番組とかいう）とんでもない話が出てるんですけどさすがに無理ですよ」とメールしたら「ぜひやりましょう」と即時梯子を外されたメールが来たのをよく覚えています。それ以降、EC シンポジウムはなんでも取り込む進取の気鋭を持つようになったように思います：)

ずっと広報として名乗っていますが、広報機能はあまりなくて（2010 年はそれでも京都で放送・実施だったのでまだお客さんが来られていた可能性はありますが）、現在では 研究者の生の声をアーカイブできるという機能の方に重きを置いています。

——5 年間のラジオ活動を振り返り、率直な感想をお願いします。

ラジオは前半後半に分かれていて、前半は各研究者の方々のご研究、後半

はそれとは別に日常生活や興味のあることについて語っていただいています。もちろん EC 研究の俯瞰という意味では前半が大事なのですが、くらもとにとって印象深いのはやはり後半ですね。

特に、いろいろな方の後半のテーマを聞いたたび話すたび「研究者の人って本当になんでも研究するんだなー」って思います。趣味の話とか最近凝り始めたこと、なんかが良く後半の話題に上がるのですが、とにかく何でもきっちり深いんですよ。通り一遍、とか、なんとなく興味があって、とか、そのレベルではない話が聞けるので、とても勉強になる半面、研究者は研究から逃れられない生態なんだなと感じることひとしお（笑）。

——いたらナイトの番組のデザインはどのように行なっていますか？ EC という、言葉だけでは難しい研究分野をラジオにする工夫等があれば教えて下さい。

『視覚情報がない』という、エンタテインメントを表現紹介するうえでは

厳しい制約条件をどうやって解決するか？というのがそもそもデザインの仕事といえれば工夫です。というのも、『見ればわかる』を封じることにより、言葉だけで自分の研究の素晴らしさや価値を説明するか、という問題に対峙しなければならず、そうすると自然に、より丁寧でわかりやすい（聞くだけでわからないといけませんから）、特に専門の研究者にだけ伝わるようなものではない、普通の人々が視聴するにふさわしい内容になるのじゃないかな、と考えていました。

—今後、『いたらナイト』をどのようにしたいですか？今後チャレンジしたいことなどがあれば是非お聞かせ下さい。

生放送と映像付きを年に1度ぐらいはやりたいですね！昨年（2014）では、福地先生監修で会期中に映像つき生放送でいたらナイト（っぼいの）を放送していただいたのですが、雰囲気違って面白いです。あと生放送だと Twitter やニコニコ生放送のコメントのように、リアルタイムでフィードバックが来ますので、それへの対応というのも興味深いですね。完パケのラジオとはまた違う番組の雰囲気になるのではないかと考えています。Skype 凸みみたいなコーナー作ったりとか…。

あとはもっと ICT-enhanced なラジオ番組・ラジオ放送の仕組みをぜひ体験してみたいです。いちど弊研究室で研究していた「話が止まるのを防止する自動話題提供システム」を持ち込んだことがあるのですが（もともとは個人生放送用を旨としています）、そういうパーソナリティ・アシスタン

ト・ゲストの支援とか、まだないですが PA さんの支援とか、いろいろ可能性はあるように思います。

皆様、もし実証実験直前で止まっているシステムなどありましたらぜひご連絡ください：)

あと、そろそろくらくとも視聴者になって好き放題コメントしたいんで、誰かパーソナリティ変わってくれたりしないかな…（見回す）（笑）

初代アシスタントメッセージ

江見 可菜恵

みなさんこんにちは。初代「くらくとも」といたるのいたらナイト」アシスタントの江見可菜恵です。あれから結婚して姓が遠藤になり、最近元気な男の子にも恵まれ、今では一児の母にもなりました。

いたらナイトの収録はわたしにとって本当に楽しくきらきらした思い出ばかりです。大学生の頃から京都三条ラジオカフェの別の番組でアシスタントパーソナリティーを務めていたのですが、その当時大学院生だったわたしに新しい番組が立ち上がるからそちらもどうかとお話を頂いたのがいたらナイトとの出会いです。

倉本先生、園山さんとお会いして番組の概要を伺ったのですが、根っからの文系のわたしにコンピュータの、しかも学会に出られる先生方の研究内容なんて聞けるのかしら！と初めは不安でした。

でも始めてみると何も心配な事はありませんでした。ゲストの先生方は素人のわたしやリスナーさんにもわかりやすい易しい表現で説明してくださ

るし、倉本先生はいつも優しくリードしてくださったので。

どの先生方もいつも瞳をきらきらさせながら楽しそうにご自身の研究や EC について話してくださいませからわたしもいつも収録が楽しくて。それから、毎収録後には必ず皆様ごはん食べに行つて、何時間も飲みながらおしゃべりしていたんですが、それがまた楽しくて楽しくて。収録時には聞けなかったごぼれ話や、EC とは関係のない話、倉本先生とはよくアニメ談義に花を咲かせましたね笑。やっぱり、大学の先生方はどんな話題であっても造詣が深く解釈が独特で、学生だったわたしにはいつも新鮮で刺激的でした。

あの頃のあの席があったからこそ、今わたしは常識にとらわれず、別の視点から物事を見たり、他と違っててもいいんだと思えるようになりました。その当時は杓子定規に物事を見ていたので。あの時感じた、あの自由で、楽しくて、わくわくした空気は今でも忘れられません。

これからもどんな話題でも瞳を輝かせながら語る先生方でいてください。わたしもそんなお母さんを目指しています！
本当にありがとうございました。



よりぬき いたらナイト

「いたらナイト」をこれから聞く人へのオススメ回を倉本先生に選んで頂きました。まずはここから！

2010年 第16回：園山隆輔 様 (T-D-F)



非研究者（デザイン屋）の立場からECを語る、という大真面目な態度で臨んではさすが、いたらナイト史上最高のぐだぐだ爆笑回になったという、謎の回です。
いや、ホントです、ホントに「生活者目線でECを語る」というテーマなんです！笑いを取りに行ったワケじゃないんです！

倉本先生コメント

鋭い突っ込みで冷静沈着のアシスタント江見さんが思わず笑いのツボにはまって抜けられないという貴重な回です。最後のセリフをくらもとが言ったのはこの回だけかも...

YouTube <https://www.youtube.com/watch?v=iXuSvx60wak>

2012年 第7回：鳴海拓志 先生 (東大)



触覚・嗅覚・味覚など、五感に働きかける技術を研究をしている者にとって、言葉だけでいかに研究の内容を伝えるかはいつも頭を悩ませる問題です。立花隆さんは「百聞は一見にしかず、百見は一体験にしかず」と表現していますが、逆に体験さえしてもらえれば人を驚かせる自信がある研究でも、それを言葉で伝えるには万の工夫が必要といえます。それだけに、ラジオで研究の面白さを伝えるという取り組みはとてもチャレンジングで、それを成り立たせるパーソナリティとしてのくらもと先生の手腕が聴きどころです。ぜひ過去のいたらナイトをいろいろと聞いてみて、もし自分の研究をラジオで伝えるならどうしゃべるだろう、と想像してみてください。きっと研究の魅力の根幹を見つめ直す良いきっかけになるでしょう。

倉本先生コメント

プレゼン資料がないとトークができないのは大学研究者の常なのですが、鳴海先生はとうとうスタジオにプレゼン用ノートPCを持ち込んでお話をされていました。とはいえラジオで聞いていても意外にわからないという上手さでしたが...)

YouTube <https://www.youtube.com/watch?v=VwfwAy0B5s>

2013年 第4回：五十嵐健夫 先生 (東大) , 五十嵐悠紀 先生 (明治大)



「夫妻のゲストは初めて」という倉本先生のお言葉から始まり、前半で研究の話、後半で生活の話をさせていただきました。私たちの研究は理解してもらうには実際に動くところを見ていただくのが一番なので、いつもはリアルタイムデモをしてプレゼンしています。ところが、静止画どころか音声だけで伝えるというラジオ。そして1発録り。緊張もしましたが、倉本先生とアシスタントの河邊さんの絶妙な突っ込みや解説のお陰でとっても楽しく、あっという間の収録でした。後半には趣味の話や子育ての話で盛り上がり、「五十嵐家の息子たちはなぜお父さんっ子なのか」などプライベートも盛りだくさん。ぜひ聞いてみてください！

倉本先生コメント

最も緊張した回のひとつです、というも、くらもと実は五十嵐健夫先生とあまり話をしたことがなくて、ラジオでうまく間がつながるのかしらと不安に思っていたりしていましたが、前半も後半も楽しく盛り上がった回のひとつです。とはいえ、前半は健夫先生が、後半は悠紀先生が主導権を握っていた感じ、でしたっけ...)

YouTube <https://www.youtube.com/watch?v=2QR6PwZ577s>

2014年 第4回 : 植原一充 様 (バンダイナムコスタジオ)



倉本先生にお声がけいただき、参加いたしました。なかなかラジオ出演という経験はなかったので、楽しかったです。CEDECは今年も8月26～28日で行いました。今年もバラエティに富んだセッションが多数あり盛り上がりました。ご興味のある方は公式サイト (<http://cedec.cesa.or.jp/2015>), 資料保存サイトのCEDiL (<http://cedil.cesa.or.jp>)、ニコニコチャンネル (<http://ch.nicovideo.jp/ch225>) を覗いてみてください。年々ゲーム、コンピュータエンタテインメント開発の裾野が広がって、新しいものが出てくる可能性もますます広がっていると感じています。皆様にも興味を持って頂ければ幸いです。

倉本先生コメント

大学の方ではないし、職業研究者の方でもないのですが、ゲームというエンタテインメントには欠かせない要素のひとつを商業的に推し進めていらっしゃるゲーム開発者の方にお話しいただいた回です。研究者の観点とはまた違う話が聞けたのが印象深かったですね。

YouTube https://www.youtube.com/watch?v=Eou6zto9h_A

そのほかにも聞きごたえ抜群、いたらナイトのアーカイブページはこちらから。

<http://entcomp.org/sig/2013/index.php?page=itaranight>

[Information]

情報処理学会エンタテインメントコンピューティング研究会 ニュースレター

編集 :

小泉直也 (東京大学) koizumi@nae-lab.org

大槻麻衣 (筑波大学) otsuki@emp.tsukuba.ac.jp

Web サイト : <http://www.entcomp.org/>

お問い合わせ : sig@entcomp.org

